

議事日程 (第 3 号)

平成26年12月11日 午前10時00分開議

日程第 1 一般質問

- 1 5 番 鵜瀬 和博 議員
9 番 田原 輝男 議員
3 番 呼子 好 議員
4 番 音嶋 正吾 議員
-

本日の会議に付した事件
(議事日程第 3 号に同じ)

出席議員 (16名)

- | | |
|------------|------------|
| 1 番 赤木 貴尚君 | 2 番 土谷 勇二君 |
| 3 番 呼子 好君 | 4 番 音嶋 正吾君 |
| 5 番 小金丸益明君 | 6 番 深見 義輝君 |
| 7 番 今西 菊乃君 | 8 番 市山 和幸君 |
| 9 番 田原 輝男君 | 10番 豊坂 敏文君 |
| 11番 中田 恭一君 | 12番 久間 進君 |
| 13番 市山 繁君 | 14番 牧永 護君 |
| 15番 鵜瀬 和博君 | 16番 町田 正一君 |
-

欠席議員 (なし)

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 事務局長 | 榊崎 文雄君 | 事務局次長 | 吉井 弘二君 |
| 事務局係長 | 竹藤 美子君 | 事務局書記 | 若宮 廣祐君 |
-

説明のため出席した者の職氏名

市長	白川 博一君	副市長	中原 康壽君
教育長	久保田良和君	総務部長	眞鍋 陽晃君
企画振興部長	山本 利文君	市民部長	川原 裕喜君
保健環境部長	斉藤 和秀君	建設部長	原田憲一郎君
農林水産部長	堀江 敬治君	教育次長	米倉 勇次君
消防本部消防長	安永 雅博君	病院部長	左野 健治君
総務課長	久間 博喜君	財政課長	西原 辰也君
会計管理者	土谷 勝君		

午前10時00分開議

○議長（町田 正一君） おはようございます。

会議に入る前に御報告いたします。壱岐新報社ほか2名の方から、報道取材のため、撮影機材等の使用の申し出があり、これを許可いたしておりますので御了承願います。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（町田 正一君） 日程第1、一般質問を行います。

あらかじめ申し上げます。一般質問の時間は、質問、答弁を含め50分以内となっておりますので、よろしく願いいたします。

なお、申し合わせにより、反問権が行使された場合は、その質問時間及び答弁時間については、議長判断により、一般質問の時間を延長いたします。

一般質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いします。

それでは、質問順位に従い、15番、鵜瀬和博議員の登壇をお願いいたします。

〔鵜瀬 和博議員 一般質問席 登壇〕

○議員（15番 鵜瀬 和博君） おはようございます。久々の一般質問トップバッターであります。今回、質問内容につきましては、特に市民の皆さんが関心ある内容につきまして、一般質問させていただきます。

それでは、通告に従いまして、壱岐市長、教育長に対しまして、15番、鵜瀬和博が質問をさせていただきます。

大きく2点。まず、1点目は、新庁舎建設についてです。2点目が、スポーツ交流・合宿の島

について質問をさせていただきます。

まず最初に、新庁舎建設についてお尋ねをいたします。

新庁舎の建設につきましては、11月会議において、市議会の庁舎建設検討特別委員会の市山委員長より報告があったように、アンケート調査の協議及び合併特例債の延長等、慎重な審議の結果、現時点での総合判断において、新庁舎の建設については、市長同様に、建設の必要性が賛成多数で可決をされました。

庁舎建設の位置づけについては、壱岐市にとっても100年の計と言われるほど、重要で重大な事業と捉えております。

今後、その詳細計画につきましては、ことし3月に壱岐市庁舎建設検討委員会から答申をされております、壱岐市庁舎建設基本構想をもとに、市役所内部においても、部長等で組織する検討委員会を設置し、現在、協議をされております。

9月の一般質問におきまして、市長は、庁舎については、複合施設としての考えはないと答弁をされました。しかし、私は、市長が壱岐市100年の計に建つのであれば、むしろ庁舎単独より図書館、コミュニティセンター、地場産品などの販売コーナーやアンテナショッピングモール、打ち合わせなどのできるカフェ、壱岐ビジョンのオープンスタジオ、FMラジオブース、庁舎に来られた方が健診・健康相談のブースなど、複合施設としての多目的な利用、つまり、市民の憩いの場所として建設すべきと考えます。

また、市民病院や各港のターミナル、出先機関などを結ぶ循環コミュニティバス等で利用者サービスをすれば、さらに利便性はよくなり、市民の憩いの場所となると考えております。

庁舎に憩いの場所を置くという、庁舎中心の考えではなく、つまり、憩いの場所に庁舎機能を持たせるという、市民中心の発想に立った考えが必要と私は考えます。

新庁舎を建設するに当たり、市民がどのような庁舎を望んでいるか。市民が集まるような憩いの施設にするために、今回こそ、市民へのアンケートなどが有効と考えますが、市長はどのように考えているのか、お尋ねをいたします。

3つ目が、建設参考のために、特別委員会も含め、先進地視察も必要と考えます。

また、合併特例債の使用期限は、30年の3月31日までとなっていますので、新庁舎完成までの今後の計画はどのようになっているのか、あわせてお尋ねをいたします。

以上、3点につきまして、本来なら、市長に答弁を求めたいところではありますが、一般質問通告後に、くしくも、私は、議会の庁舎建設特別委員会の委員長に就任をしました。そのため、今回、質問はさせていただきますが、委員長という立場でもあり、今後の委員会で活発な議論をしてもらうためにも、ぜひ特別委員会での答弁をお願いしたいと思います。

特に、今回の私の提案につきましては、さまざまな複合施設として、かなり面積も必要ではな

かろうかと思しますので、建設予定地の面積も関係しますので、あわせて早々に建設の予定地についても、特別委員会での答弁をお願いしたいと思います。詳細な答弁は要りませんが、ぜひこの特別委員会で市長がはっきり、建設予定地も含めて、お考えを言っていただくことを約束していただけるかどうかの確認だけさせていただきます。

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 鵜瀬議員の御質問にお答えいたします。

新庁舎の建設は、壱岐市100年の大計でございます。議論を尽くし、よりよいものを建設しなければなりません。鵜瀬議員おっしゃるように、議員皆様の御意見、真摯にお答えをするということは、私の当然の責務だと考えているところであります。建設場所についても当然でございますし、特別委員会開会されましたならば、お答えをしたいと思いますっております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） ぜひ特別委員会では生中継、そして録画放送も予定をしておりますので、市民の皆さん、ぜひご覧になっていただいて、市長の考え、そして、それぞれ議員の考えもお聞きいただければと思います。

それでは、この件につきましては終わりたいと思います。

2点目のスポーツ交流・合宿の島についてお尋ねをいたします。

現在、「がんばらば長崎」地域づくり支援事業、壱岐島ごっとり市場プロジェクトを観光連盟を核として、さまざまな取り組みが行われております。しまとく通貨などの相乗効果もあり、台風などの天候不順の影響もありながら、観光客数は昨年と同程度と健闘をしております。そのような中、平成27年度からの第2次観光振興計画を現在策定中であります。

そこで、提案をさせていただきます。交流人口拡大のため、ことしは特に、長崎がんばらば国体壱岐大会が開催され、選手を初め多くの方が来島され、さまざまな波及効果があったと思っております。

また、島外スポーツ団体誘致補助金の要綱の一部を昨年改正しまして、10人から5人以上の団体を対象としたことで、野球やバレー、バスケ、サッカー大会などの選手はもちろんのこと、応援など多くの方が、島外からのスポーツを通しての交流人口が拡大をしており、各種大会ごとににぎわい、年間約6,000人程度、教育旅行に匹敵するほど訪れております。

ことしは特に、十八銀行陸上部や九電工の陸上部など実業団の合宿も開催されておりますが、国体開催に伴い、大谷ソフト球場やふれあいグラウンド、勝本球場など、まだまだ十分ではありませんが、球技場はある程度、整備をされております。しかし、特に、陸上グラウンドの整備に

については不十分だと考えております。

今後、実業団陸上部などを誘致するためにも、大谷グラウンドを多目的ではなく、長崎の競技場のようにアンツーカーなど整備し、陸上及びフィールド内はサッカー場として整備すべきと考えますが、そうすれば、さらに交流人口はふえると考えます。

スポーツ施設は教育委員会の所管であります。交流人口拡大の施策の一つと考えれば、市長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

また、筒城のふれあい広場の芝生はいつもきれいに整備をされておりますが、ラグビーやサッカーをするには、グラウンドのレベルが一定ではなく、白線など附帯設備が整っておりません。

また、芝生広場周辺の遊歩道は、小学校や中学校の駅伝大会に活用されておりますが、れんが敷きで足元が悪く、滑りやすく、膝への負担も大きいのではないかと心配をしております。

また、現在、中体連駅伝大会は、一部、一般道路を走っておりますが、この外周遊歩道を整備延長すれば、交通事故などの心配も解消されるのではないかと考えております。

この周辺は、筒城浜体育館、グラウンド、テニスコート、多目的施設など周辺環境もよく、アンツーカーなど生涯スポーツや健康増進のためにも、あわせて整備し、民宿や旅館を宿泊利用したスポーツ合宿の島として、さらに交流人口拡大に向けて取り組んでどうかと考えます。

また、整備する上では、担当課だけではなく、ぜひスポーツ関係諸団体や、実際、利用者の声を多く聞いている施設管理人などの意見も聞いて、ぜひ取り入れて整備に当たっていただきたいと思っております。

2点目につきましては、機構についてお尋ねをいたします。

現在、スポーツ交流や合宿は、今後、交流人口の拡大、島の振興にとっては重要と考えております。

現在、国体を初めスポーツ施設管理など、教育委員会の所管となっておりますが、先ほども言いましたとおり、離島の振興の一つとすれば、スムーズに振興推進し、行政でするために、教育委員会から切り離し、市部局の企画振興部の観光商工課にスポーツ振興誘致課として新たに設置してはとありますが、市長、教育長はどのようにお考えか、お聞かせをいただきたいと思っております。

現在の組織機構では、国の補助金や交付金が省庁のどの部署から来るかによって、担当課が振り分けられているように見受けられます。

例えば、国土交通省の離島振興策の離島甲子園など、政策企画課が企画運営の核として、イベント前後まで忙しく動いていたように見受けられました。本来なら、政策企画課というのは、市長の政策実現のため、市政の総合的な企画立案、調整、政策評価などを行わなければならない部署であり、イベントが多ければ、業務に支障を来していないか心配をしております。

また、これからは特に、壱岐市の第2次総合計画策定や自治基本条例制定まで、さまざまな調

整事項が待ち構えているので、その進捗、本当に間に合うかどうか。また、多忙過ぎて、職員の体調を心配をしております。

担当課の振り分けについては、国、県の補助金、交付金の補助金先ではなく、事業内容により振り分けて、行うようにしたほうがいいのではと考えますが、市長の考えはどうでしょうか。

一応2点、スポーツ交流・合宿の島についてお尋ねをいたします。市長、教育長の答弁をよろしくをお願いします。

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 15番、鵜瀬議員の質問に対してお答えをいたします。

まず、大谷運動公園が壱岐市教育委員会の所管になっておりますので、その分も含めて、私のほうが先に答えさせていただきます。

その前に、今回、第69回の長崎がんばらんば国体の壱岐市競技の開催につきましては、市議会を初め市民皆さんの温かい御支援のもと、おもてなしの心を発揮していただき、無事に終了することができましたこと、改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、大谷運動公園は、グラウンド、体育館、ソフトボール場、テニスコート、ゲートボール場などを施設として有しており、幅広く市民の方に利用いただいているところでございます。

特に、大谷のグラウンドにおきましては、御承知のように、陸上競技、野球、ソフトボール、そしてグラウンドゴルフや市民のジョギング等に高い利用率を維持しております。

野球競技が一面、内野のダイヤモンドを同じ状況にするということからして、芝生の部分が、いわゆる、いびつな状況を生じております。これは、ソフトボール場の確保についても同じことが言えて、幾分、その影響が見られます。

トラック内の芝生が、御指摘のように、サッカー場としての広さとして確保できるかどうか、これまで大谷運動公園をつくりましてから、市民の皆さんの利用とともに、いつも話題には上がっております。しかし、御指摘の陸上競技場として、これを整備するということについては、幾つかのハードルがございます。

陸上競技場の公認の形では、第1種から第4種までございます。第1種から第3種までは、大変厳しい条件がありまして、直線あるいはカーブの縁石、ふちいしと書きまして縁石と申しますが、これが幅5センチ、高さ5センチによって敷設をすることが公認の規定になっております。

第4種に、かろうじて認められるとすれば、その縁石の高さを減じて、路面は同じ高さにして、ただ、内側に5センチの幅で、そういったものの敷設が求められることとなります。そうしますと、野球あるいはソフトボールをするときの内野の部分に、その部分がきっちり常設されることになってきて、スパイクあるいは打球等のいろいろなイレギュラー性を生んでくることの危険性

がそこにあることから、なかなか実現できずにきているのが現状でございます。

これまで、大谷の多目的広場が隣にあります専用球場を含めて、ソフトボール等も2面ないし、子供にとっては三、四面とれるということで、同じ場所で同じ形の進行状況での大会開催ができるという、大変利便性の高い状況から、県下の数々の大会もここで開催することができているという利便がございます。

そういった中で、今御指摘の御提案の部分について、これから市民の利用度等を考えたときに、どちらが将来的にいいのかと申しますのは、陸上競技場としてしっかりしたときの、いわゆる誘致がどの程度見込まれるかということになるかと思えます。

県下にも、現在佐世保市になりました宇久町では、かつて陸上競技場をつくり、同じような形でサッカーもできる形にしておりますが、公式認定のところまではいっておりません。合宿も誘致をしながら、なかなか思うようにいかない。

と申しますのは、400メートルのトラックコースを、陸上部、実業団等が利用する場合、スピード練習をする場合には、400メートルのトラックが大事にされます。しかし、持久力とか長い距離を走る場合には、ロードあるいはその他の施設等で練習をされるのが常でございます。今年度、陸上競技部長距離の3銀行団がおいでいただいたのも、むしろ、スピードをつけるという意味でなく、長距離の持久的なところをするということで、筒城浜等の利用もしていただいところでございます。

よって、現在のところ、大谷の多目的広場は、この多目的な要素を持った形で運用することのほうが、市民多くの方に、あるいは島外からの誘致をする場合の県下の少年少女のソフトボール大会等も、一堂の場所でできるという点で大変好感を持たれておりますので、今のところ、教育委員会としては、現在の多目的広場を有用にしながら、中体連等の400の利用あるいは高校生が利用する市民体育大会、ナイター陸上等では、ラインを引くことによつての400のトラック、あるいは、それぞれの各レーンがとれるということで進めていきたいと考えているところでございます。御理解をいただければと思います。

その後半にございました、筒城のふれあい広場については、先ほど申します交流人口の確保等にかかわって、大変緑豊かな場所として、壱岐の大事にしなければならないポイントだと考えております。

サッカー、ラグビー、公式競技ができるように改修をするためには、かなりこれは費用も必要かと思えます。練習場所として、あるいは合宿としてする場合に、果たして、1面でそれが可能かどうか。補助的なサブグラウンドも、そこに企業としては求めているのが全国各地の状況のようでございます。

議員がお考えになりましたように、この自然の芝生はそのままにして、活用しながら、私ども

も今検討していることがございます。この芝生周辺に整備されている遊歩道、一部れんが部分が御指摘のとおりでございます。先日開かれました小学生駅伝についても、子供たちの滑りがないか、ずっと心配をしておりましたが、無事に終わりましたし、中体連の駅伝大会がここを一つの場所として定着しておりますので、何とか、いい形で競技場として整備できないかということを考えてきたときに、現在走るのにやや向かない部分を、路面の整備を含めることは、例えば、ゴムチップ舗装という全天候型の形にして、例えば距離は1キロメートルジャストぐらいにして、スタート地点からそれぞれ100、200等の距離を明示しながら、ジョギングあるいはウォーキング等にも、一般市民の利用できるようなそういう形のことになると、中体連駅伝とか、あるいは、小学生駅伝はもとより、実業団が合宿に来て、この広場を中心にした形でスピード練習もクロスカントリー的なことを含めて、この場でかなり有用にできるのではないかと考えているところでございます。そういった方向で検討を進めておりますので、所要の手続が出て、議会の皆さんにお諮りをするときが来ましたら、ぜひ御理解、御支援をお願いできたらと考えております。

2つ目につきましてでございますが、スポーツ交流・合宿の島についての御提案でございます。

教育委員会が管理をしている場所あるいは観光商工課のほうで管理をいただいているところでございます。今、2つの部署が連携をしながら進めさせていただき、今年度もいろいろな形で事業等を進め、島外からもいろいろ来ていただいたところでございます。先ほど申します九電工、十八銀行、肥後銀行、鹿児島銀行等の合宿に対しても、約200泊の宿泊をいただいた実績が出ました。

同じ離島である五島市の例を少し申し上げますと、ここは教育委員会にスポーツ振興課を置いているようでございます。この五島市は、実は、五島高校のほうに壱岐高校の離島留学生と同じで、離島留学にスポーツコースというのがありまして、そういった点で、教育委員会が少し踏み込んだ形で取り組むという形が整っているというのも一つあるかと思えます。この五島では、合宿誘致にも取り組んでおられ、年間3,000泊を目標に営業活動を実施されておられるようでございます。

施設の管理部門と営業部門とが必要になってまいりますので、議員がおっしゃるように、交流人口の拡大は、私たち壱岐の島の振興にとりましても大変重要であることに間違いはございません。現在も、教育委員会部局、市部局が連携を図りながら、誘客に努めているところでございますが、今後、より一層の連携を図り、トップセールス等、積極的な誘致戦略に力を入れていきたいと考えております。

新たに課を現状の中で設置することがいいのかどうか。私ども、現在の体制で、何とか連携を強化していくことで、この誘致等に努めていければと、現在のところは考えているところでございます。

以上でございます。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 15番、鵜瀬議員の2番目の質問でございます。

ただいま教育長から御答弁をいたしましたけれども、スポーツ交流人口がふえております。これは大変うれしく思っているところでございまして、鵜瀬議員がおっしゃる、そういった施設の整備というのも十分理解できるところでございますけれども、今、教育長申しましたように、考え方といたしまして、社会体育あるいは市民の利用、そういったものを考えましたときに、教育長が今申し上げました考えと、私は同じ考えをしているということで御理解いただきたいと思っております。

また、本年1月に九電工、5月には十八銀行、肥後銀行、鹿児島銀行の合宿を受け入れました。1週間程度でございますけれども、200泊という効果をいただいております。これは実は、トップセールスをいたしまして、直接、責任者、陸上部長等々に私お会いしまして、合宿誘致をしたところでございます。

そういった中で、私は、トップセールスというのが非常に有効だと今思っているところでございまして、このスポーツ合宿のみならず、教育旅行等々につきましても、関西の学校を回らしていただいたりしているところでございます。

そういった中で、先ほど申されました施設管理部門、営業部門が必要になるということでございまして、やはり、管理部門は政策企画課も管理している施設もございまして、主として、教育委員会が施設を管理をいたしておるところが多うございます。

そういった中で、先ほど申しますように、社会体育、市民の利用を考えたときに、やはり管理は教育委員会、そして営業活動、こういったものは、もちろん教育委員会も含めてですけれども、トップセールスあるいは観光商工課等々にさせたいと思っているところでございまして、議員提案のスポーツ振興課というものの設置は考えていないところでございます。

また、先ほど政策企画課の御心配をいただきました。議員御指摘のように、政策企画課は、市の政策について、その骨子といいますか素案と申しますか、そういったものについて研究をするのが主でございます。しかも、今回の地方創生、まちとしごとの創生も担当させるということになります。そういった中で、議員御指摘のように、かなりの負担が政策企画課にかかると思っております。今、内部で検討しております。これは、やはり人員をふやすなり、その仕事に見合った人員配置をする、そういった方向で臨むことといたしておるところであります。いずれにしましても、議員のいろんな踏み込んだ御指摘を参考にさせていただきまして、今後、そういった面

も考えてまいりたいと思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） まず、1点目の大谷グラウンドにつきましては、教育長が御指摘された、いろんな大会の折に利用しているというのは、もちろん知っているんですけども、私が何で大谷かというのは、あれだけ広いグラウンドが壱岐にはありませんよね。特に、壱岐はスポーツにかなり力を入れてまして、例えば、中体連ですとかナイター陸上あたりでいい成績をとられた場合に、県大会あたりに行きますね。そのときに、向こうの陸上競技場あたりは、もう土ではなくて、アンツーカーとかあいつたスパイクを履かないといけないような状況のところになっております。

壱岐校のグラウンドにも周りにアンツーカーを引かれて、その分の短距離の練習についてはされるようになっておりますので、例えば、邪魔にならない周辺あたりに、直線だけでも、100メートルとか引けるようであれば、ぜひしていただいて、県に行く前に、そういったところにある程度なれてから行かれたほうが、今の子供たちはなれているでしょうけど、そういった部分も必要じゃなかろうか。ぜひ、実力を発揮していただいて、スポーツを通して壱岐をPRしていただきたいという部分の思いがありましたものですから、その内容については、スペース的なこともあると思いますけども、今後、ぜひ御検討をいただきたいと思っております。

また、筒城のふれあい広場周辺の遊歩道については、今教育長が言われました全天候型のゴムチップ、タータンだろうと思っておりますけど、現状がかなり、れんがが剥がれたり劣化をしておりますので、その部分の見直しはしないと、今後も小学校駅伝、中学校駅伝大会は開催をされると思っておりますので、早急にぜひ整備をしていただきたいと思っております。

また、芝生広場につきましては、できれば、もちろん公式がいいんですけど、定期的に整備をされていって、かなり使われておりますが、例えば練習するにしても、ラグビーの場合はポールが立ってないものですから、投げたりはできますけど、キックあたりの正確性の練習をしたときに、なかなかそういった部分ができないと。あくまでも合宿の一部として捉えていただければいいんじゃないでしょうか。

このような財政が厳しい折ですので、なかなかそう簡単にはいけないとは思いますが、このスポーツ交流に関しては、離島振興法の中の離島活性化交付金、これは基本的には、離島振興計画に基づく事業じゃないとできません。それで、今後、第2次壱岐市の総合計画なり、第2次の観光振興計画を今策定中でありますので、スポーツ交流にもかなり力を入れていただければ、現状では、その教育旅行に匹敵するほどの人数が来ており、これからも多分ふえていくだろうと思っておりますので、その環境整備については、さらに内部で検討していただいて、していただきたい

と思います。

結構、利用された方も、壱岐の施設はいいという話もありますが、一方では、中途半端だということをよくお聞きします。もちろん教育長が言われたとおり、公式の球場なり陸上競技場なりができれば一番いいんですけども、今の広さでするとなると、かなり大がかりな工事にもなりますし、特に今回、大谷のソフトボール球場もかなりの費用をかけて整備をしております。ぜひ、そういうことも加味しながら、その中に入れていただければと思います。ぜひそれはお願いをしておきます。

先ほど、2点目の機構改革については、何でスポーツ振興誘致課という、わざわざ課まで、人数いない中で提案したかという、やっぱそういう意識を持って、教育委員会の社会教育課と商工観光なり常に意見交換をしながら、営業誘致、大学等に行くというふうにしたときに、ぜひ、これは市長に来ていただかないといけないという、そういうのを両課でしてほしいんですよね。そういう意識を持たせる意味でも、そういう御提案をさせていただきました。

結局、今の状況で、そういった意見交換が頻繁に行われれば、一緒に営業に行くし、施設については教育委員会、受け入れについては観光商工課、そして、ここぞというときに市長がトップセールスをする。そういう体制を構築をしていただきたいんですね。ぜひそれが交流人口拡大になるんじゃないかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

また、政策企画課の人員の増員については、今後、内容について、厳しいとは思いますが、人員配置については、業務の振り分けとか内容については、ぜひ市長、内部のほうで御検討いただいていただかないと、仮に病休あたりが出た場合に、1人か2人になりますので、ぜひその辺は十分御検討いただきたいと思います。その点について、教育長と市長に、再度、御答弁いただきたいと思います。

○議長（町田 正一君） 教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 鵜瀬議員のただいまのお尋ねについて、少し、教育委員会として考えておりますこととお話ししておきたいと思いますが、陸上競技場、そしてまた、陸上競技に打ち込んでいる子供たちの力を今後も伸ばしていくということを基本にお持ちだと思います。

今、中学校のほうに、少しお話を向けていることがございます。それは、例えば郷ノ浦中学校が、ほかにはない器楽部として文化部活動を取り組みましてから、もう数年たちました。しっかりと定着をして、いろいろなところでその活躍ぶりが認められるようになりました。

市内の中学校はこれまで、球技のほうを中心に、年間通した活動をして、陸上のほうは、陸上中体連として、年間、短期間の練習と、駅伝も短期間の集中的なことによって、県下の大会に臨んでおりました。統合もしましたし、生徒数も一定確保できますので、陸上を年間通してやりた

いという子も中にはいるだろうと。2人でも3人でもよいから、陸上部を設置することで、その指導にたけた先生と、年間を通したことです。先ほど言われるような、また、市の大会であるいは県の大会に向けての環境整備についても声も上がってくるでしょうし、利用度も高まってくるだろうと思ひ、次年度から、中体連等につきましても、大幅な見直しをして進めることに競技会のほうも考えておりますので、この陸上部等をできれば設置して、壱岐市はやはり陸上で、これまで県下にあるいは全国に名前を売ってきた部分がありますので、素質を持った方がおられると思ひますので、発掘をしてほしいと考えているところでございます。

グラウンドだけを考えないでも、体育館等も含めた、いろいろな形での島外からの誘致のスポーツイベントは、壱岐でも行われておりますので、鵜瀬議員のお話は、そういったほかの施設も含めて、私どもに交流人口の増大を考えろとおっしゃっていただいているものと受けとめておきたいと思ひます。

実業団の陸上部でおいでになった監督のほうも、やはり、先ほど申しますゴムチップ、これが通常の言葉でございまして、ゴムチップ舗装による全天候型の部分といいますか、それらの1,000メートルコース、欲をいえば、2,000メートルコース等があると、実業団の合宿は、多分、動くだろうというお言葉もいただいております。市長部局のほうと相談をしながら、進めているところでございます。

教育委員会としても管理はいろいろしておりますが、私どもはやはり、狙いは人づくりでございます。誘客等については、観光商工課等のお力をかりながら、この連携を深め、事業等についてはお互いの力を持ち合わせて、取り組んでいるところで進めていきたいと考えておりますので、また今後とも進めていきます。

合宿について、もう一言だけ申し上げておきますと、この陸上の合宿も、夏場は涼しいところを求めていかれます。そして、高地を求めていかれるというのが、一般的な傾向でございます。そうしますと、どのような時期に壱岐には来てもらえるか。今年度、来ていただいたのは5月でございましたし、夏の暑いときには、やはり、なかなかかなという気持ちも持っておりますが、そういった点も含めて、いろいろな設備等も、そこに附随しなければいけないことも出てくるだろうと思ひますので、検討させていただきたいと思っております。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 鵜瀬議員の追加の質問でございますけれども、教育委員会と市の行政部門との連携、これは先ほど議員御指摘がありましたように、国体を通じて、大変うまく調整ができるようになりました。関係プレーが非常にできるようになりました。それを一つ大事にして、

今後、市と市の部局、教育委員会部局、その連携がうまくいくように、これを大事にしていきたいと思っております。

それから、職員の過重労働でございますけれども、現在、市の職員の中で、年間1名ないし2名、休職をいたしております。これは、私は、必ずしも過重労働であるとは思っておりませんが、仕事のこともある、あるいは、その仕事に対する対応がうまくできないというようなこともございます。しかしながら、そのことも含めて、今議員御指摘の過重労働、そういったことによる健康障害、そういうことについては、これは私の責任でございますから、そういうことがないように、職員の健康管理には意を持ちたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 鵜瀬議員。

○議員（15番 鵜瀬 和博君） ぜひ交流人口拡大は、これからの離島の振興には欠かせないと思いますので、ぜひ教育委員会と市部局のほうで連携をして取り組んでいただきたいと思います。あわせて、施設の整備についてもお願いをしたいと思います。

これからは、地方の知恵次第でいろんな取り組みが変わってきます。やる気のあるところだけにお金が来るような形になりますので、ぜひそういう思いの中で、市長、教育長のリーダーシップをとって、頑張っていたきたいと思います。離島活性化交付金の使い方、活用についても十分研究をさせていただければ、そういった部分でもできますし、あと宝くじ等もありますので、その辺も整備もあわせて、t o t oもありますから、ぜひ研究をしていただきたいと思います。

先ほど教育長が言われました、この陸上部、実は、お知らせ、御存じかと思うんですけども、この12月の21日、日曜日に全国高校駅伝があります。実は、福岡の大牟田高校に壱岐の江口君が行っているわけですけども、実際、その京都を走るみたいな、そういう形で、壱岐出身者が全国大会に行かれて、活躍をされてる。それが子供たちの夢にもなりますので、ぜひ教育長、特に筒城のふれあい広場の遊歩道の改修については、早急にしていただければいいんじゃないかかと思えます。

いろいろと、これから離島にとってはかなり厳しくなります。今、谷川代議員も国境離島新法制定に向けて頑張られておりますので、制定されてから慌てるんじゃなくて、その前に、ぜひ壱岐市として、そういった壱岐の振興計画をきっちりして、こういうことだから、こういうふうにしてくれというふうにするように、こちらのほうからお願いをしております。これからは、ぜひ、チーム壱岐、オール壱岐で頑張ってください、壱岐の振興、そして、いろんな課題を解決していただきたいということをお願いをしまして、私の一般質問を終わります。ぜひよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

〔鵜瀬 和博議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、鵜瀬和博議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（町田 正一君） ここで暫時休憩いたします。再開を10時55分といたします。

午前10時45分休憩

.....

午前10時55分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、9番、田原輝男議員の登壇をお願いします。

〔田原 輝男議員 一般質問席 登壇〕

○議員（9番 田原 輝男君） 皆さん、おはようございます。通告に従いまして、9番、田原が一般質問をさせていただきます。

大きくは3点について質問をいたします。

まず1点目の道路整備について、そして市内の道路管理について質問をいたします。

道路整備につきましては、長年の懸案であった県道渡良浦初瀬線の整備が平成27年度の新規事業として、今県議会に提案をされております。「今後も壱岐市の単独要望については積極的に実施してまいります」と、市長行政報告で述べられております。

それでは、質問の内容でございますけれども、市内の道路延長、その中に改良済みと未改良済み合わせて約1,334キロ、そしてまた路線数3,926路線と伺っております。未改良につきましては、今後どのような対策を考えられているのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（町田 正一君） 田原議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 9番、田原議員の御質問にお答えいたします。

1点目の市内の道路管理についてということでございます。

道路整備につきましては、今まで長崎県知事に対しまして市の単独要求をしてきたところがございます。

特に三島大橋、嫦娥大橋と並んで、この渡良浦初瀬線を要望していたところがございます。この県道は本当に長年の懸案でございました。

ところで、今回、県知事に要望した後、実は山本県議会議員が粘り強く交渉をしていただきました。その結果として、今回新規事業として採択されたものでございまして、延長2,300キロを新規採用、合わせて15億円、大きな新規着工をしていただきました。山本県議及び知事に対して深甚なる敬意と感謝を申し上げるところであります。

さて、壱岐市の道路総延長は1,400キロを超えます。しかしながら、議員御質問の市道に限って申しますと、路線数、これは25年度末でございますけれども、路線数3,926路線、総延長1,334キロメートルでございます。この長さは博多駅から東京駅までが約1,175キロでございますから、さらに東北方面へ160キロ行くということになりますから、福島県の会津あたりまで、福岡からですね、それほど長い延長でございます。

市道の中には、幅員が2メートルのものから7メートルまで整備されたものまでございます。現在、市道の改良工事につきましては、合併以前からの継続路線を中心に整備を進めております。これらは比較的交通量の多い路線でございます、地域内の主要な生活道路でございます。現在まで多くの路線の改良要望が上がっておりますけれども、財政の厳しい中でも危険な箇所あるいは緊急車両の通行に支障を来している区間等について、突角削除など局部的な改良に取り組んでおります。

未改良道路という定義というのはなかなか難しゅうございますけれども、一般には5メートル以上が改良済みと言われるわけですけれども、これは壱岐の実情に合っておりませんので、3.5メートル未満を未改良道路として申し上げますけれども、3.5メートル未満とした場合に、延長が約639キロでございます。これは、先ほど申しました市道全体の約48%でございます。

これをまた先ほどの博多駅からのことで例えますと、博多駅から京都までが661キロでございますから、京都過ぎたあたりまでの距離ということになります。一般的な道路改良事業を行う場合は、現時点ではメーター当たり30万円ないし40万円が標準的な断面でかかるという状況でございます、たとえ1路線であっても、1,000メートル、2,000メートルという路線はなかなか改良工事全線的な改良を行うということは非常に財政的にも厳しい状況でございます。

これまで改良してきた道路、4メーター、5メーターの道路でございますけれども、既に数十年たった道路もございまして、これらは先ほど申しますように比較的利用度の高い道路でございますので、優先して改良されてきたところでございますけれども、これら改良済みの道路につきましても、老朽化が著しい区間もございます。舗装のひび割れ、排水路の不良、路肩の崩れなどが見受けられます。

したがって、未改良の道路を新規着工ということよりも、これらの保守に力を入れてまいりたいと思っております。これらはやはり交通量が比較的多いという道路でございますから、事故等を未然に防ぐためにも、これらのメンテをしていくということに力を入れたいと思っております。

特に、以前整備した道路につきましては、側溝にふたがないというのが大変ございまして、その区間にふたを設置するなどの改修工事に取り組む必要があると考えております。限られた予算の範囲内ではございますけれども、交通量が多く、幅員が狭くて危険な箇所等を優先して、順次

整備を進めてまいりたいと考えておるところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 今市長が言われたとおり、私も思っております。もう次に出す言葉がないぐらいに私の思いの答弁でございました。

本当に財政が厳しい中で、新しい道路をつくる、なかなか厳しいものがあるかと思っております。今、市長が言われたとおりに道路改良ができてから30年、40年たって、今現在ではかなり老朽化が進んでおります。

私の考えと市長の考えは一致したわけでございますけれども、本当に各地域、また公民館からの要望もかなりなものがあるかと思っております。それにお応えするのでもまたなかなか厳しい面が、今の現状ではあるのじゃないかと思っておりますけれども、いろいろ市民の利便性、いろんなものを考えたときに、今市長がおっしゃられました、例えばU字溝の上にふたをかけて道路幅を広くする、片一方で50センチいけば、1メートル弱ぐらいまで道路は広くなる利用度があると思っております。

それで、このことにつきましても、本当やるからにはかなりの金が必要というように考えております。それで、これから先、年次計画を組まれまして、本当に市民の皆様方の負託に応えられるようなすばらしい道路網というのを考えていただきたい、そのように考えております。

それから、全般的に言いますと、まず市道は市が管理をする、そして県道は県が管理をする。そして今現在、各公民館などで管理をされていない路線があります。その中で私も一、二、担当のほうにお願いをしたわけでございますけれども、やはり担当といたしましても、なかなか要望に応えにくい本当に四苦八苦されております。

先ほど鶴瀬議員から一般質問の中で、職員数をふやしていただきたいという、そして取り組んでいただきたいというお話がありました。それで、今の現在、壱岐市において本当に関心が高い職員を私もふやしていただきたいなあという課は、やはり農林課、建設課、そして水産課、この壱岐市内の重要なポイントではないかと思っております。

それで、私、いろんな方からお願い、要望がありまして、担当に言っても本当四苦八苦されてなかなか忙しい状況でございますので、市長、そこらも考えていただきたいなど、これは思っております。

それで、高所作業を使われて、各公民館で今は館長様が申し込まれて建設課のほうでやられておりますけれども、この外の品をやはり市が管理をしなければならない路線につきまして、今後かなりな路線があるかと思っております。そこらのお考えを市長にお伺いをいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 道路の管理ということでございます。

議員御指摘のように、今や公民館、自治公民館をお願いしているのがほとんどでございますけれども、それ以外の道路もでございます。そういったものを総合的に勘案しまして、今自治公民館でも高木伐採等は特に対応ができないような状況になっております。

そういった中で、私は、これは希望的な気持ちでございますけれども、やはり今回のまち・ひと・しごと、あるいはきっと成立するであろう国境離島新法の中で、そういったものを一元的にできる組織をつくれなかなということをおもっております。

また、その公民館の管理あるいはそれ以外のものについても、一元的にそれを管理するそういった組織、ある意味でこれは企業になるわけでございますけれども、そういったものを立ち上げたいなと思っておる次第であります。

そのメニューがあるかどうかは別でございますけれども、やはり今後、人を雇用する、そういった機会をつくるために市はある程度リスクも負わなきゃいかんということをおもっている次第でございます。特に道路については市が所有しているといいますか、市がその設備をしておるわけですから、特に安全管理については市の責任でございますので、先ほど申します側溝のふた、あるいは路面の凹凸等々について、意を払いますとともに、今申されました高枝伐採、道路の管理、その他の管理についても、研究してまいりたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 本当に今市長申されましたとおりにしていただきたいと、そう思っております。

そして、やはり公民館につきましても、多い戸数もあれば少ない戸数、公民館自体が統合しなければならぬような状況になっておるのも事実でございます。それで、市道につきまして、本当に管理が大変かと思っておりますけれども、担当部署とよく相談をされまして、安全性確保を保っていただきたいなと、そう思っております。

早いようですけれども、2番目に行きます。2点目の質問でございますけれども、国体を振り返ってという質問でございます。

これに書いて通告しておりますとおりに、自転車競技は台風19号の接近により、やむを得なく中止をせざるを得なかった状況でございます。ソフトボール競技につきましては、13チーム256名、競技役員が81名、報道関係者約50名が来島されて、10月18日から20日にかけて熱戦が展開されましたという御報告がありました。そして、子供たちに夢、希望、そして感動を与えていただきました。

また、今後、どのようなスポーツ振興に取り組んでいかれるのかをお尋ねをいたします。市長と教育長にお願いをいたします。

○議長（町田 正一君） 教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 9番、田原議員の質問にお答えをいたします。

国体が無事に終わりました。御指摘のように自転車ロードレースは残念でしたが、ソフトボール競技につきましては、3日間、好天の中、市民の皆様のお力添えで盛会裏という言葉を使っていいのだらうと思いますが、終わることができました。

ただいまの御質問の中の言葉に、私自身大変感銘するところがございます。それは、子供に夢と希望と感動を与えていただきましたとお話いただいた部分でございます。私自身が本大会を終わりましたから、学校観戦、あるいはジュニアクラブ等での観戦等をしていただいた中で、分析をしていることがありまして、今ちょうどその議員のお話になる夢、希望、感動ということで少しまとめさせていただいておりますので、お話しさせていただきたいと思っております。

夢ということでは、やはり壱岐で生まれ育った者でも努力をすればこのような舞台に立つことができる。自分の中の可能性の夢を気づいてくれたと。2つ目には、多くの観衆の見ている中でプレーができることの喜びをわかった。3つ目に、目標を持って努力すれば夢はかなう。夢を持つことはいいことだ。そういうことで分析しました。

希望についても、自分もそのようになれるかもしれない。努力すればなれるという実感を持ったでしょう。具体的で現実的な目標をそこに持つことができた、あるいは自分の持っていた目標が間違っていなかったと、確信できたこと。

3つ目の感動という部分では、多くの部分があったらうと思っておりますが、試合前の練習に打ち込む姿、個人もチームも心は一つになっていること、全力でプレーする姿や力強さを感じるプレー、まるでプロみたいだと。観衆や応援者と接する選手の姿、そして後輩を大切にしている姿。

4つ目に日本の、いや世界の第一線で活躍する選手のプレーを自分の目で直接確かめられたこと、その喜びを、真剣で必死なプレーの一部始終をスタンドからしっかり見たこと、補助員として手伝った高校生は、特に3日間の時間を選手の身近なところでいろいろな面に触れることができたこと、同学年の友達と一緒に見たことによって、一生を通じて共通の話題がそこにできたこと、50年に一度あるかないかの場に居合わせて体験できたこと、そして、選手は会場をすぐに去ろうとしないで、子供たちと時間の限り接してくれたこと、最後にソフトボール教室では、必死に指導を受ける自分のチームの監督やコーチの姿を目の当たりにしたこと等々を分析をしていたところでございます。

先ほどの子供たちに夢と希望、感動を与えたということ、学校教育の中でも今後引き続き続

けていきたいと考えております。

ソフトボール競技の3日間が終わったときに、日本ソフトボール協会の副会長から、今回の運営はすばらしかったとお褒めの言葉をいただき、来年もソフトボール競技の全国大会を壱岐で開催しては、私たちは協力しますよと力強い言葉をいただきました。国体で培った大会運営のノウハウを糧として、機会があればいろいろな競技の大会を誘致したいと考えております。

先ほど申します、来年も全国大会の規模をというこの言葉の意味は、うのみにはできません。と申しますのは、実は全国大会の規模を誘致するには、少なくとも3年ぐらい前から動いておかないと、この分については各競技協会等の団体がありまして簡単にはできないのですが、エールとして受けとめながら、今後壱岐市がそういう動きをして、例えばソフトボールでいいますと、壱岐市ソフトボール協会を通じ、県、そして日ソ協に通じた中で、このことが上がっていくときに、御支援いただけるお言葉ではないかと考えているところでございます。

今後の大会等の計画については、27年度には県民体育大会のサッカー大会で、50歳以上の部をこの壱岐市で開催することにしております。壱岐市ふれあい広場やダイエー横芝広場がその主会場になろうかと思っております。現在、サッカーゴール等の整備についても、御要望いただいているところでございます。

また、少年ソフトボールの長崎県予選大会の開催が壱岐市ソフトボール協会の御尽力で確定をしております。こういった競技も、先ほど申します3年、その前から協会の方たちが動かれて、初めて誘致ができるということになろうと思っております。今後とも、各競技団体との連携をしながら理解をいただき、連携を持って意欲的に取り組んでいきたいと思っております。

市長が常々申します交流人口の増大にいろいろな形で壱岐市で開催をすることに壱岐の宣伝をするということ、壱岐のよさを知ってもらおうということ、このスポーツを通じてその面が生きればと考えているところでございます。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 田原議員の2番目の質問にお答えいたしますけれども、国体に関する振り返って、そしてまた今後のスポーツ大会の予定等々については、教育長がまさに言い尽くされました。私としては、そのことを全面的に応援する、私といたしましては、それはある意味予算的なものであろうかと思っております。

それはぜひ、今後のスポーツの計画について、教育委員会等々が県大会、あるいは全国大会、あるいは対外から対外交流大会等々を誘致された場合は、全面的にバックアップをするということをお願いしたいと思います。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 教育長と市長からいろいろとお話がありました。

実をいいますと、この国体の壱岐開催の誘致事業につきまして、今から数年前にこの壇上でこの壱岐で国体をとという一般質問をやらさせていただいた経緯があります。

そして、それが数年たちまして、今、白川市長になりまして実現したわけでございます。そして、願ってもないこのソフトボールというまた競技、本当に関心の高い競技が開催されたわけでございます。

私ごとではございますけども、本当にこの10月の18日、まして第1回戦長崎・群馬という大会、私の誕生日でありまして、何かこれに縁があるなというふうに感じたわけでございます。本当に教育長、今述べられましたように私も競技場におりまして、これは芦辺のふれあいの競技場でございます。県の副会長のほうとお話をしているさなかに、いろんな方向から意見が意気投合いたしまして、是が非でも壱岐で強化合宿にできないでしょうかという、そういうお話をいたしました。

そしてところが、こんなにすばらしい施設は日本でも余りあり得ないでしょうと、大谷につきましてはあんだけ広い陸上グラウンドがあって、徒歩でソフト専用球場に行ける、こういうのは余りないというお話を伺いました。

そうしているうちに、先ほど言いました話が弾んでいるうちに、ならば1部リーグを壱岐で開催というお話をいただきました。これには今、教育長がおっしゃられました、そう月日が早いうちにはできないかと思っております。いろんなあれがあると思います。そして、壱岐市にもかなりの負担がかかるのではないかと、そう思っております。

けども、やっぱりスポーツ交流、本当にこれが今壱岐市にとっての一番のいろんな方向から考えたときにすばらしい壱岐市の活性化になるのではなかろうかと、私はそう思っております。

それで、そのことにつきまして、あとは教育長、そして市長と相談をされましていろんな関係機関と連携をとりながら、本当に先ほど言われましたとおりに、スポーツの島壱岐というぐあいを持っていただいたらと思っております。

そのことにつきまして、市長、教育長、何か御答弁をいただければと思っております。

○議長（町田 正一君） 教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 田原議員のただいまの御質問にお答えいたしますが、私のほうも合宿というのは少し抜かしておりまして申しわけございませんでした。大会そのものの誘致には、先ほど申しますようないろいろなハードルがありますが、何とかそれも乗り越えていきたいという

気持ちであります。

加えて、合宿ということになったり、あるいは下部リーグのいろいろな大会とか、予選会等であれば、これだけの施設を整備した中では、お話をしたときに、先ほどからの県ソ協、あるいは日ソ協のいろいろな方たちに、この実際に体験していただいた場所であるだけに御支援いただけるのではないかと考えております。

地元の者が豊永優選手に続く形で、あるいは小嶋那奈美選手に続く形で気持ちを持っている中で、合宿等の誘致ができることは、これほどまた素晴らしいことはないと思います。

先ほどお話しいただいた大谷の専用球場のあの素晴らしい施設をいろんな形で生かしていくのも、私たちの責務だと考えております。検討いたします。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 本当にスポーツの島壱岐を取り組んでいただくなれば、本当にこの1部リーグの話が、是が非でも1部リーグを壱岐で開催というのを私たちも進めますから、どうか地元も盛り上げていただきたいというお話を伺ったときに、やっぱり国体の影響、これはかなりなウエートを占めておると、私は思っております。

そして、いろんな国体開催に至っている関係役員の方が本当に御苦労かけたことを、そして大変だったろうと思っております。そして、この国体の中で一番私を感じたのは、まず、小学生、中学生、その子供たちが外野席ではありましたが、試合をしているさなか、どちらの応援でもないんです。どちらの双方とも応援、これは私たち大人にとって素晴らしい感動をいただいたわけでございます。

そういう観点から、本当に今後、何回も言うようでございますけども、いろんな方向、そして関係機関と連携を組み合わせながら、この1部リーグ開催というのを私は願っております。

そして、再度質問になりますけども、教育長、この1部リーグ開催について、是が非でもいろんな連携、手に手を取り合って進めていただけますか、御答弁ください。

○議長（町田 正一君） 教育長。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 田原議員のお尋ねにお答えいたします。

先ほどおっしゃるように、1部リーグの監督をしている方が、今回ある県のブロックの代表でおいでになっておりました。私は、2年前に岐阜大会に行かしていただいた折に、その監督とお話をするのができ、今回もまた、試合が終わってから直接お話をいたしました。

これほどスタンドの中に観客が埋まって試合をしたのは何年ぶりだろうか、オリンピック予選のときにあったかなという形の感想を漏らしていただき、また来たいという気持ちのことを言

われ、1部リーグも県下では九州南部にも大会をしているときもあると、合宿等もあるというお話も聞いておりますので、今議員お話のようなことは実現は不可能ではないと考えておりますし、先ほど申します実業団のほう、あるいは2部リーグもありますし、そういったところからの触手を深めながら、競争相手は多うございます。施設設備についても、また海を渡らなければいけないというハードルのないところでは、競争相手は多うございますが、努力をしたいと思えます。

つきましては、当然、準備段階からいろいろスタッフも要りますし、お金も要ることになります。どうぞ御支援をお願いしたいと思えます。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 教育長、よろしく願いをいたします。市長のほうもよろしく願いをいたします。この件につきましてはこれで終わりたいと思えます。

最後になりますが、これは本当イノシシ対策についてでございます。

ここに通告しておりますとおり、9月に志原の釘山、私たちの公民館でございますけども、私の田んぼの上です、そこにまたイノシシがあらわれまして、被害をこうむったという状況でございます。

その田んぼにつきましては、本当3年連続でございます。3年連続で同じ場所でございます。そうした被害が出ております。そして、担当課を通じてまたいろいろとお話もしましたけども、今後の対策につきまして、市長、どのようにお考えかをお伺いをいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 9番、田原議員の3番目の御質問、イノシシ対策についてということでございます。

御存じのように、ことし3月21日にイノシシ1頭を捕獲をしたところでございます。その後、4カ月全く音沙汰がなくて、あのイノシシ1頭だったかなと正直申し上げて安心をしておったところでございますが、7月29日から9月12日にかけて、石田地区、これは池田でございますけれども、2件、志原地区6件、初山地区4件で、ヌタ場、足跡の情報が合計で12件ほど寄せられました。

先ほど申しますように、3月21日から約4カ月何もなかった。で、7月29日から9月12日まで、45日間の間にこれだけの痕跡があった。私は本当ですかということをお聞きしましたところ、これは确实だということでショックを受けたところでございます。

その後、本日までちょうど3カ月間になるわけですがけれども、情報がないという状態でございます。ことしは昨年に比べますと情報量が少ないというのが現状でございます。

イノシシ対策については、市民皆様からの情報提供を受けまして、壱岐地域鳥獣被害防止対策協議会、これは壱岐振興局、壱岐市農協、猟友会、共済組合、森林組合、壱岐市で構成をしているわけでございますけれども、今そういう状況の報告等々が行われているところでございます。

現在の対応でございますけれども、痕跡のあった地域を中心に箱わな3カ所、くくりわな17カ所の設置を行っております。巡回あるいは管理については、壱岐猟友会にお願いをし、早期捕獲に努めているところでございます。

島内のイノシシの生息頭数を実際に推しはかるということは不可能でございます。方法はございません。現状ではごく少数であると思っておりますけれども、複数頭の生息も十二分に考えなければいけないと思っております。壱岐地域鳥獣被害防止対策協議会と連携して、市民皆様からの情報をもとに分析を行い、ハンターによる駆除を行いたいと考えているところでございます。

ハンターの育成につきましても、昨年度から対馬猟友会の御協力をいただいて、捕獲技術実地研修を行っております。捕獲技術の向上を図っているところでございますが、本年度新たに2名の方に銃所持の許可がおりる見込みでございます。銃所持に対して助成を行うようにいたしております。

また、11月17日から19日にかけて、農林水産省農作物野生鳥獣被害アドバイザー、わな師を招致し、わな設置の現地聴取を、実施を行っております。このハンターの育成でございますけれども、延べ8の方に受講をさせていただいております。7名の方が今資格をお取りいただいているところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 本当イノシシ出てからでは遅いわけでございます。それで、その以前の対策が私は大事かと思っております。今まで島内にイノシシが出没をいたしましてから、さあどうしようということで、対馬猟友会、いろんな方向からお願いをして、また早急にはなかなか向こうは向こうでありますから対応ができない。ならば、その間にイノシシは地域に限りなく行動範囲がありますから、動くわけでございます。

それで、私は、持っておりますけれども、今いろんなまた2名の方があれされるということでございますけれども、早急に対応できるということになれば、市内でそうしたハンターの方、いろんな方を踏まえて、これには一番大事な猟犬が要るわけでございますけれども、この猟犬が年間を通してかなり訓練等も必要かと思っております。そして、訓練しなければちょっと使い物にならないというお話も伺っております。

これから先、これ以上ふえないことを願い、そうするならば、市内でそうした組織を持ってイノシシ対策に充てるという対馬猟友会に似た程度の、似た程度ちゅうたらちょっとおかしいです

かね、そうした形の対応は考えられないのか、お尋ねをいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 今、田原議員おっしゃいますように、イノシシの捕獲には猟犬が欠かせません。それも1頭や2頭ではだめでございます、複数頭、10頭に近い犬が要するということを聞いております。

それだけの犬の今おっしゃいますように調教と申しますか、訓練と申しますか、そういう組織を維持していくということは非常に厳しいなと思っております。

そしてまた、私、銃の経験はございませんけれども、水平撃ちというのが非常に難しいと聞いております。対馬は山が、背には山があって急な勾配がございますから、水平撃ちというのは山の土手に当たるから安全だと。ところが、水平撃ちでライフル700メートル飛ぶそうでございます、壱岐で水平撃ちをして、壱岐は山が低うございます。真っすぐ行く可能性もあるわけです。

そうした中で、なかなかかなり熟練した方でないと、水平撃ちはできないということも聞いておるところでございます、ですから、鳥なんかは飛び立ったときしか撃ってはいけませんもんね、下にとまっとるときは撃ってはいけん、そういう状況でございますので、そういった面については、私ができるできないというよりも、猟友会と十分相談をしながら、先ほど申します有害鳥獣の協議会とも十分お話をしながら進めてまいりたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 田原議員。

○議員（9番 田原 輝男君） 今、市長がおっしゃられましたように、猟犬の問題、これが一番のネックになるかと思っております。

けども、農家にとりましても、いろんな方向から考えましても、これ以上イノシシがふえないこと、そういうことを考えていただきまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔田原 輝男議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） ここで暫時休憩をいたします。再開を13時とします。

午前11時33分休憩

午後1時00分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日は、立石東触の公民館の皆さん、公民館活動の一環として、毎年のように議会に傍聴に来ていただきましてありがとうございます。壱岐市議会を代表いたしまして、心よりお礼申し上げます。

皆様方が選挙で選ばれた議員の活動を、今後も引き続き温かく見守っていただきたいと思えます。

それでは、一般質問を続けます。

3番、呼子好議員の登壇をお願いします。

〔呼子 好議員 一般質問席 登壇〕

○議員（3番 呼子 好君） 先ほど議長が、立石東触の公民館の皆さんが研修に来られております。市長におかれましては、的確な御答弁をお願い申し上げたいと思っています。

衆議院選も、あと3日後に迫ったわけでございます。今回の選挙につきましては、安倍内閣のアベノミクスの評価、これが主点になろうというふうに思っておるわけでございますが、今回、私は、安倍内閣の第2期の地方創生、これについてのまだ具体的ないろいろな要領等が出てないというふうに思っておりますが、今後、壱岐市として、これを大いに活用しながら、活性化を図っていかうというふうに計画されておるのかどうか、その点を市長の考えをお聞かせ願いたいというふうに思っています。

特に壱岐市につきましては、最大の問題は雇用対策でございます。人口減少、この2つが、壱岐の課題でございまして、これをいかに克服するかが、我々行政に携わっている者の宿命だろうというふうに思っておりますから、きょうは、そういう関連から、いろいろ質問をしていかうというふうに思っております。

若い人に聞きますと、壱岐では働きたい、でも仕事がないじゃないかというそういう声が出てきます。私は、この若い人の働く場所、先ほど言いますように、どのようにしたらいいのかということ、やっぱり壱岐島民全体含めて考えなければいけないというふうに思っています。

きょうは、立石東触の方も来ておられますが、今まで我が家を守り、先祖を守り、それで地域を守ってきたそういう方たちは、あとはもう私で終わりですよという、そういう言葉が発せられるということ、大変情けないというふうに思っていますし、きょうは、職員の皆さん方もおられますが、職員の皆さんで、うちはもう2代、3代安泰だという方はなかなかいないと思っています。

自分の子供はおっても、その子はわからないという状況が出てくるということで、やっぱり20年、30年後、壱岐の島が沈没するんじゃないかという、そういう危惧もしておるところでございまして、そういう観点から、今回の地方創生につきましてはの考え方を市長にまずお尋ねしたいというふうに思っています。

○議長（町田 正一君） 呼子議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 大勢の傍聴の方の前で、3番議員、呼子好議員からも明確な答えをということを要請されました。今までどおり明確な答えを申し上げたいと思っております。

行政報告で申し上げましたとおり、国は、11月21日に地方創生の理念等を定めたまち・ひと・しごと創生法案と、活性化に取り組む地方自治体を国が一体的に支援する地域再生法の一部を改正する法律案の地方創生関連2法案が、可決・成立をいたしました。

壱岐市におきましては、壱岐市人口減少対策会議、これを立ち上げまして、第1回目を11月26日に開催し、向こう2年間、この人口減少問題への取り組みを各分野が連携して、定住人口をふやす方策、交流人口をふやす方策など、あらゆる角度から議論し、地方人口ビジョンや地方版総合戦略を策定するようしております。

具体的な計画内容につきましては、今後、国・県において、新たな交付金制度の創設に向けて検討がなされておりまして、これらの国・県の動きも視野に入れながら、壱岐市の地方版総合戦略をつくり上げていきたいと考えております。

先ほど呼子議員は、人口減少と雇用、この2つが大きな問題と言われましたけれども、私は、人口減少と雇用の場の創出は同じものだと思っているわけでございます。

と申しますのは、人口の減少に歯どめをかけるためには、私は究極的に仕事を創出することに尽きると思っているわけでありまして。この仕事がないということが、人口減少、転出をふやし、子供たちの卒業後の転出をふやし、そして、Uターンをしようという人の受け皿もないということで、そこまではわかっておるんです。

仕事をつくれれば、人口減少ははどめがかかる、ここまでは皆さんもわかっておる、私もわかっておるんです。その先がわからんわけです。どういう仕事をつくるのか、どうしたら仕事ができるのか、これを私どもは一生懸命考えるのでございまして、私は、人口減少は、先ほど申しました仕事場をつくるということに、究極的に尽きると思っているところでございます。

そういった中で、私は、今度の人口減少対策会議の中で、第1回目の会議の中で、次はどのように進めようかということの中で、やはり分科会をつくって、それぞれ検討しようということまで決まりましたけれども、私は、ぜひこの仕事をどうしてつくるのかということを、私はこの3分科会とも集中して議論していきたいというふうに思っております。

そういう中で、私は、起業、いわゆる起こす業でございまして。起業していただく、そういう方をぜひお願いしたいと思っておりますけれども、私は、こういう情勢の中で、起業家だけにリスクを負わせるということでは、私は壱岐での起業はできないと思っております。

そのときは、やはり今度、恐らく成立するでありましょう国境離島新法、そういったものの中

で、国も、ある程度リスクを背負うという私は法律ができると思っているんです。

そういう中で、壱岐市としても、リスクを背負うと、そのくらいの覚悟がなければ、壱岐に仕事はできないと私は思っているわけございまして、そのときは、皆様方の御理解をぜひいただきたいと思っております。

私が、このまち・ひと・しごと創生、そして国境離島新法の政策に大変期待をいたしておるということを申し上げて、呼子議員の最初の御質問にお答えしたいと思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 今回の地方創生につきましては、御承知のように、石破大臣が就任されております。石破大臣は鳥取県出身で、大変田舎でございまして、適任かなと思っておりますし、特に今回の創生につきましては地域を盛り上げる、地域の減少対策をやるということが大きなメインでございまして。

私も、今、市長が言われましたように、企業がなかなか誘致ができないというのが、これは私もわかっておりますし、そうしたら、どういうのがあるのかということをしていろいろ聞きますと、1つは、定住、あるいはIターン、Uターン、こういうことに対して、少し力といたしますか、情報提供してもらったらどうかということで、今回、私なりに今、定住促進、Iターン、Uターンの取り組みをしておる市町村が結構あります。

若干、内容を報告をしたいと思っておりますが、北海道に雨竜という町がありますが、ここは、人口が半減したという中で、このIターン、Uターンの定住促進をやっているという記事がございまして、ちょっと調べたら、Uターンの独身者には20万円、滞在者には30万円という、そういう思い切った予算措置をされて、ある程度のことをやっておるといって、そういうのが出てきました。私は、お金だけじゃなくて、それぞれの分野で、そういうことができるんじゃないかなというふうに、思っておるところでございまして。

特に、ここの北海道は農業が盛んでございまして、農業に対しても就任で20万円というそういう市独自で、壱岐の場合は、1年間、研修を終わってから60万円という、そういう金額でございまして、そういうことも魅力があるんじゃないかというふうに思っておりますし、あそこ島根県の出雲、ここにつきましては、この定住促進、Iターン、Uターンのイベントを東京でやったということで、去年からやって、ことし、2回目、先週の12月7日に、東京でやったということを知っておるんですが、ここに約500人ぐらい、そういう魅力といたしますか、内容の確認に参加されたということ、実質、いろいろ模索しておるのは、十二、三人が、この出雲のそういうIターン、Uターンの制度に乗って、そして頑張ろうというそういうやっぱ今回の地方創生につきましても、東京から地域へというそういう人の流れ、そういうのが出ておりました、少しは出

雲の状況を見ると、成果があったんじゃないかなと思っています。

壱岐もいろいろ物産展をやっておりますが、物産展とあわせてそういうことも、ひとつ壱岐で、壱岐の自然、そして食、文化、こういうのを堪能しながら、壱岐で生活してほしいという、そういうパンフレットもつくってもらえよというふうに思っています。

これ、私はインターネットで調べた出雲の内容です。ここを見ますと、先ほど言いますように、ここ自体が縁結び定住課という、そういう専門的な課ができております。ですから、やっぱここに私は電話で聞きますと、8名、そういうのが職員がおるということで、徹底して、そういうものに企業がなかなか来ないから、どうかしてその地域で人口減少に歯どめをかけようということをやったという、そういうことが出ておりましたし、これも、出雲がつくっておる住まいづくり助成金ということで、大きく出ております。

ここの出雲に行きますと、世代、子供を育てる世代には50万円、重点地域といいまして、ここはやっぱふやさんにやいかんというところは75万円とか、そういうことをパンフレットでして、そしてこれ、東京とかそういうところでPRしているという、そういうことが出ております。

私は、これが1つの起爆剤になっていくんじゃないかと思っていますし、これも、いろいろ聞きますと、職員のアイデアというそういう話を聞いております。

ですから、壱岐も、かなり優秀な職員もおります。ですから、いろいろ勉強しながら、いかに1人でも多く壱岐に来てもらう、生活してもらうか、それが課題だろうというふうに思っていますが、このIターン、Uターンに対する市長の考え方をお願いしたいと思っています。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） Iターン、Uターン、先ほど申しましたように、Iターンの方は特に、壱岐におっしゃるときはあわせて居住地、いわゆる住宅もそうですけれども、あわせて仕事のことをおっしゃるんです。ですから、なかなかそのマッチングをしないというのが実情でございます。

今、いろいろ出雲とか北海道とか御紹介ございました。私は、それが効果をあらわしている制度ならば、まねをさせていただいていいと思っています。

呼子議員が今、おっしゃるこの方たちが、50万円、70万円もらってこられて、その後の追跡の結果がおわかりでしたらぜひお聞きをしたい。20万円、30万円、単におあげする、それは簡単かもしれませんが、その後のフォローがどうなっているのかということをごぜひお聞かせ願いたいと思っております。

さて、壱岐市といたしましては、定住人口の増加、このことはもう本当に一生懸命考えているわけでございますけれども、この地域振興を図るためには、定住人口の増加が必要不可欠であり

ます。

私たちは、既に平成18年度からインターネットを活用いたしまして、本市に、壱岐市にIターンやUターンを希望される方に、情報を提供するための空き家・空き地情報バンクを開設いたしております。

12月4日現在、空き家が5件、空き地が2件の登録の実績がございますけれども、これまでの成立件数といたしましては、空き家が20件、そのうちIターン者へ6件、Uターン者へ1件の7件でございます。それに加えまして、地元の方へが13件ございます。

また空き地、これは空き地と申しまして、今、申し上げました家屋について家庭菜園的な土地でございますけれども、15件でございます。Iターン者へ2件、Uターン者へはございません。地元の方へ13件となっておりますところであります。

また、都市部で行われる長崎県移住相談会、これは、ことし8月3日に東京で実施をいたしました。全国の島々が集まる祭典のアイランダー、これが11月23日、24日にございました。私は、この理事長でございますけれども、ここで参加をいたしまして、壱岐の魅力を発信しながら、直接、都市部の方へ定住の促進のPRを行っております。

これまでも、人口減少対策の一環といたしまして、定住促進事業にいろいろな施策を講じてきておりますけれども、特効薬とはなっていないというのが現状でございます。

これから始まる国のまち・ひと・しごと創生の総合戦略の方向性の中で、人口減少対策として、地方への新しい人の流れをつくる取り組みが示されております。

今後、壱岐市が作成する地方版総合戦略の中で、議員がおっしゃるような、空き家の改修や旅費、生活者の一部助成なども含め、有効な定住対策について、壱岐市人口減少対策会議の意見をいただきながら、検討してまいりたいと考えております。

それから、先ほど石破大臣のことをおっしゃいました。たしか鳥取県出身でございますけれども、この方は、代議士として3代目でございます、非常に強いお力をお持ちです。

また、その地方創生の本部長代理と申しますか、職務代理と申しますかが、先ごろ壱岐にお見えいただきました、前新藤義孝総務大臣でございます。

私は、全国の離島振興協議会長をしております関係で、大臣にも、新藤先生にもお会いすることが出来ます。そういった中で、ぜひ表に出ないいろんな情報をいただいて、ぜひ活用させていただきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 先ほど市長が、成果はどうかという話でございましたが、これも、出雲のほうから出たんですが、定住者のそういうコメントが出ている。ちょっとあれしますと、

17年でUターンしました、12年にUターンしましたと、17年、12年とか、そういう体験談という方のそういうのが出ておりますので、私はこれは成果があったんじゃないかなというふうに思っております。もし、よかったら後もって差し上げたいと思っております。

それと、市町村によっては、いろいろな補助事業を使いながらやっておるというのがございますので、私も、よその事例を市長に話すじゃなくて、今回、特に鯨伏地区の海の駅ができました。これを核にしてやっておるというそういう要素がございます。保養施設とかいろいろそういうのがありますから、私は、特に湯本を中心にして保養施設を、温泉がありますから温泉をつけた土地の一角とか、サンドームが空いておりますから、サンドームを何かの改修してやるとか、鯨伏中学校をやるとか、一体的な海の駅を核にしながらかつたらというふうに思っていますし、よそが、そういうところは出てきておりますので、今回の地方創生でも、そういうのが該当するんじゃないかというふうに思っておりますから、ぜひ先ほど言いますように、人口減少の中でそういうことをしながら、壱岐の魅力というのをやっぱ発信してもらいたいなというふうに、思っております。

あとは、後もって答弁は結構でございますが、もう一つは、行政に参加するというそういうことをまちづくり100人会議というのを私も聞いたところでございます。この内容は、どういふものかといいますと、やっぱり一般市民も行政に携わる、それが大事じゃないかということで、そういう会議を立ち上げたということで、100人一遍に会議をしても、いろいろ問題ありますが、その分科会というのが、7つとか8つとかそういうのを分かれて、その市の行政の問題とか、あるいは提言とか、そういうのを話し合いをして、一般市民もやっぱり参加するという、そういうことをしたというのが出ておりました。

私は、壱岐も、そういうのがやっぱり一般市民の皆さん方の声も必要じゃないかなというふうに思っていますが、それについての市長の考え方をお願いしたいと思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 呼子議員の先ほどの湯がっぱのことについてお答えをしたいと思っておりますが、私は、この湯がっぱの海の駅、壱岐で初めて海の駅ができたわけでございますけれども、私は、これは成功すると思っておりますし、成功してもらわないかと思っております。

私は、なぜ成功すると思っているかと申しますと、あの構成員の仲間たちが、自分たちの力で、湯本をどうかしようという熱気にあふれております。そういう私は、みんなの力、それがあれば必ず成功する。また、そういうお考えの人があられだけ集まれば、私としても応援のしがいがあると、市としての応援のしがいがあると思っております。ですから、これはぜひ成功していただきたいと思っております。

そういったことも含めまして、今、言われます湯本の保養施設としての再生と申しますか、保養所として育てていく、大賛成です。しかし、今、申しますように、行政が旗を振っては、私は成功しないと思っているんです。

今度、ぜひ湯がっばの方々が、こういうふうにしたいと、ついては、いろんな方策はないかというようなことで、やっぱりもう一回り、気持ちとして持っていただくならば、私は、それも十分応援していきたいと思っていますし、市も、それなりの協力をしたいと思っている次第であります。

やはり「溺れる者はわらをもつかむ」と申します。自分たちがどうかせないかんという、もがかれる方については、行政は一生懸命やります。しかし、行政がこうしよう、いや、こうしてくださいよ、お願いしてやる事業は、今まで皆さんおわかりのように、全部失敗しております。

ぜひ各地域の皆さん方も、俺たちはこうしたいんだということを行政に訴えていただきたいなと思っています。それが私は、まちづくりの基本だと思っている次第であります。

さて、三度目の御質問の人づくりと住民参加ということでございます。

この100人会議というのは、私も調べさせていただきましたら、秋田市と静岡県の島田市に事例があるようでございます。これは、市民の皆様方から御意見をいただく広聴制度の手法のひとつだということでございます。

この100人会議って、何で100人かと申しますと、これは、さまざまな御意見を賜るという意味だそうございまして、全ての公募をするというやり方とか、男女何人ずつとか、年代とか、地域構成に配慮したとか、そういったいろんな方法があるようでございますけれども、この100人という人数、100人じゃなくていいんですけど、100人に近い人数というのは、なぜかと申しますと、市民の皆様の意見や考え方は、年々、多様化しております。

ところで、関心のある方の声は非常に大きい。関心のある方は声は大きいんだ。そうでない人の声は小さくて、結果として、少人数であれば声の大きい人がその意見が通る、そういう傾向にあると。それを防ぐために、いろんな分野から、そして年代も多様な年代から、そういったふうは無作為に選んで、そして結果として、みんなの意見を反映することができる、それがこの100人会議の趣旨だそうございまして、そういったことでございます。

壱岐市といたしましては、今、皆様方に御提案をいたしております壱岐市自治基本条例、これをぜひ、小学校ごとに、行政区を設置するようにいたしております。したがいまして、そういった行政区の単位などで、皆さん方のいろんな意見を吸い上げていきたいと思っている次第であります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 湯本の湯がっぱの関係、いろいろそういうやる気のある人に対して、市のほうから情報提供をして、ぜひ言われますように、成功していただきたいと思っておりますし、ここは、いつも熱心でございますから、私は大丈夫だろうというふうに思っています。側面からの御協力をお願いしたいというように思います。

住民参加につきましては、ぜひ100人でなくても、やっぱ市民の声が聞こえる、そういう場所を提言してもらえばというふうに思っていますから、我々議員だけじゃなくて、執行部だけじゃなくて、一般の市民も参加するというので、壱岐を盛り上げてもらいたいなというふうに思っておるところでございます。

私の質問は、そういうことで、いろいろ情報の提供でございましたが、要は、先ほど言いますように、いかにして盛り上げるか、これがもう尽きると思っていますから、その点についても、いろいろと今回の地方創生のほうで情報提供してもらって、お互いに頑張っていこうというふうに決意をいたしております。

質問につきましては以上でございますが、若干時間ございますから、質問通告しておりませんが、1つだけ市長をお願いしたいと思っております。

今回、きょうも、牛を飼っている農家の皆さん方が来ておりますが、おかげさんで、12月につきましては、かなりの高い値で過去最高の値段をとりました。金額で、子牛で4億5,600万円、成牛で6,400万円ということで、5億2,000万円の販売を生みました。

大体、今年度の予定が、子牛だけで23億円ぐらいかなというふうに思っておりますが、それだけのお金が島外から流れてきておるということで、ぜひこの肉用牛振興についても、先般、質問したときに、市長は、大胆な発想でやるという、そういう決意をされました。

もう来年の事業計画、それぞれ策定中だろうと思っておりますが、これに対して今、大胆に計画しておるのか、していないのか、その一言だけで結構でございますから、お願いしたいと思っております。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） その件につきましては、次の一般質問でございますので、その場に許していただきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 呼子議員。

○議員（3番 呼子 好君） 音嶋議員があと、ゆっくりやるそうでございますから、よろしくをお願いしたいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わりたいと思っております。御協力ありがとうございました。

〔呼子 好議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） せっかくお越しいただいているので、引き続いて一般質問を続けます。

次に、4番、音嶋正吾議員の登壇をお願いします。

〔音嶋 正吾議員 一般質問席 登壇〕

○議員（4番 音嶋 正吾君） それでは、現在、3番議員の呼子議員が登壇をされた後に、今度は4番議員の4番バッターの音嶋正吾が、通告に従いまして一般質問を申し上げます。

大きくは2点でございます。私も、1点目は、席を横にしておりまして、呼子議員との調整がなかなかうまくいきませんで、かぶっておる面がございましたんで、割愛をするところは割愛をさせていただきたい。

市長から答弁もございましたが、やはり経済の牽引こそが、人口減少の最大の歯どめであるということは、共通の認識であります。その現象がますます加速しておるのは事実であります。地方と都市との最低賃金の格差においても顕著であります。そして、税が東京都、大きな会社、大企業の本社を置くところに連結決算して、全て税までが集まってしまうというような状況が生じております。

そうした中、現在のような状況が起きておると。地方の人口減少は、永遠のテーマであり、これをいかにして防ぐかというのは、市長の仰せのとおり、経済の活性化以外には何ものでもないというふうに考えております。

そこで、市長としての首長としてのビジョンというのを明確に示すべきであると。そして、性急に結果を出すものでもない。しかし、その方向に進んで全てが動けば、方向が合えば、必ずや住民も幸せの一助の光を見ることができるといふふうに考えております。

順不同になりますが、小項目の1、2、3と書いてありますが、この順番でお答えにならなくても結構であります。

私は、今回の行政報告の中で、市長は、企業誘致のために助成金制度を設けるといふふうにご書いてあります。これは具体的にどういう助成金制度をいつまでに、どのような形で行うのかということをお示しをしていただきたいと思いますと考えております。

そして3番目には、これは内閣府において呼子議員からも質問がありましたが、やはり地方創生局のほうで、地方の現状、そして将来にわたっての人口推移、そしてその地域としての潜在能力を生かした戦略というのを国のほうとしても掌握をし、支援をしていきたいということであろうかと思っております。

ならば、その市町村における、市における方向、いわゆる将来への展望というのが、ある程度、把握をされておらないとできないと。今からは、そうした会議を立ち上げるということでありま

すが、やはり首長、市長としての明確なる指針というのはあってしかるべきだと思いますので、以上の件に関してお答えをいただきたいと思います。

○議長（町田 正一君） 音嶋議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 4番議員、音嶋正吾議員の御質問にお答えします。

大きく人口減少対策についてということでございます。

申し上げるまでもなく、平成17年から、日本全国の人口が減少に転じております。そういった中で、国は、将来の人口を1億人ぐらいにとどめて進めていきたいという考えをお持ちです。

そういった中で、やはり地方の人口減少がストップしない限り、ととてもとても1億人は維持できないという考えから、まち・ひと・しごと創生本部等々をつくられたという、私は認識をいたしておるところであります。

そういった中で、本年5月、日本創生会議において、全国で896の自治体が、将来、消滅の可能性があると考えられて、その中に壱岐市も含まれておるわけでございます。1,700余りの自治体の中で、896が消滅するという予想でございます。

このような状況も鑑みまして、壱岐市人口減少対策会議を立ち上げ、官民一体となって人口減少対策に取り組む体制を整備いたしたところでございます。

本市における人口の状況につきましては、厚生労働省の平成20年から24年の人口動態統計特殊報告によれば、本市の合計特殊出生率は2.14、全国9位と上位を占めておりますが、一方で、平成25年10月現在の本市の高齢化率は33%でございます。全国の国の25%を大きく上回っている状況でございます。

人口減少の要因につきましては、この著しい少子高齢化に加えまして、御指摘のように、本市における高卒者の9割が進学・就職により市外へ流出してしまうという状況が非常に大きいと考えております。

市といたしましても、進学時により流出した人材が、壱岐市に戻って就職できるよう、雇用環境を整備する必要があると考えております。将来的に、市内の雇用拡大につなげるために、創業や企業を促進するための融資制度の整備も検討いたしております。

その他の地域の実情に即した産業振興につきましても、主産業である農業、漁業について、JA、JFとともに振興を図っていると認識しておるところでございますが、その主要産業、それを活用した雇用の場が創出できないかということも、JA、JFと相談をいたしておるところでございます。

次に、その仕事場の創出、それを企業誘致においた場合、助成制度の拡充を示唆したとあるが、具体的にはどんなことかという御質問でございます。

壱岐市は、いわゆる光ファイバー、高速通信、高速情報通信インフラを有しておりまして、ブロードバンド環境でございます。

その強みを活用して企業誘致を推進していることから、情報通信関連企業立地促進事業として、コールセンターやデータセンター、情報サービス、ソフトウェア事業者などについては、長崎県産業振興財団の助成制度に加え、壱岐市独自で補助金を交付することといたしているところであります。

しかし、今後、本市での雇用拡大を図るためには、情報通信関連に限らず、他の業種についても積極的に誘致活動を展開することが必要であると考えているところでありまして、現在、情報通信関連企業に限定している助成を製造業など他の業種にも拡大することを検討しているところでございます。

また、中小企業に対しましては、現在、市内で1年以上営業を継続している事業者を対象とした振興資金融資制度を実施しておりますが、先ほどの質問でも申し上げましたとおり、将来的に本市での雇用拡大につながる施策として、市内での企業や創業の促進を図るために、創業資金にかかる融資制度につきましても、整備をするべく検討いたしておるところでございます。

そして、音嶋議員言われますビジョンということになるわけでございますけれども、国は、地方創生関連2法案を成立させ、人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する国民の危機意識の共有を図るとともに、50年後に、1億人程度の人口維持を目指す長期ビジョンと人口減少を克服して、将来にわたって活力ある日本社会を実現されたもの、5カ年計画を示す総合戦略を取りまとめることとしています。

壱岐市におきましては、国と連動し、地方人口ビジョン、地方版総合戦略を今後、策定していくことといたしておりますが、議員お尋ねの、何を重要視すべきかにつきまして、私は、一つには、先ほど申しました合計特殊出生率、これを維持するために、子ども・子育てに力を入れるということが第1であります。

子ども・子育て会議で、先日、答申を受けましたことについて、実現を図っていくことが大事であると思っておるところであります。

2つ目には、私は社会減を抑制すること、いわゆる転入者数より転出者数が大きく上回っている状況でございます。今、壱岐市の現状は、年間500人が減少しているという状況でございます。それは自然減が250人、これは死亡者と出生数の数が250人いるということでございます。そして、転出と転入の差が250人、大きくございまして、約500人が年間減っているという現状でございます。

この差を少しでも縮めることが大事だと考えております。そのためには、仕事を起こす起業支援や企業誘致の促進が必要と考えております。そのために、現在、長崎県壱岐振興局において検

討されており、島外流出を食い止めるための職づくり事業、仕事場づくり事業という意味だそうでございます。や、U・Iターン者の積極的な受け入れ事業など、本市も県の施策と一体となった事業を策定し、1つの課題に取り組んでいかなければならないと考えています。

また、さらには、官民が一体となって協働プロジェクトを立ち上げていくことも、最重要と考えております。そのためにも、今回、設置をいたしました人口減少対策会議において、定住対策、雇用対策、出産・子育て対策など、あらゆる面からの議論を尽くし、壱岐の特色の強みを生かした戦略を策定していきたいと考えているところでございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） はい、わかりました。

実は、私も、人口減少化に対して一番危惧しておりますのは、国立社会保障・人口問題研究所が、2010年を100とした場合に、2040年の推定人口を出しております。

その中で、一番重要視しておりますのは、ゼロ歳から14歳の人口、いわゆる年少人口、これが2010年には4,178人であるのに対し、2040年には2,217名、53.1%、そして15歳から64歳、いわゆる生産年齢人口と申しますが、これが1万5,856人、2010年ですね。2040年には8,908人、56.2%。いわゆるこの世代、若年人口がトータルした場合、2万34名になりますね、平成10年では、それが平成40年には、1万1,125名、55.25に必須的になるわけですね。

ということは、非常に高齢化社会が加速すると、これはもう現実ですよ、市長。ですから、言われたように、子育て支援に力を入れるということは当然のことです。ですから、今後は、こうした総論ではなくて、具体的に踏み込んだ話に、ここでできるように計画をしていただきたい。

そして、企業誘致に関しては、今現在、いわゆる大企業、グローバル企業というのが収益を上げております。円安のために収益を上げております。ですが、グローバル企業は、今まで円高のために、そしてまた生産費のコストを下げるために、外国に出て行ったわけです。で、円安ですから、円高のようなリスクは伴わないから、地元、やはり日本国内に生産拠点を置くことは、私は可能であると考えています。

ですから、いわば地方創生省の石破大臣なんかには直接、全国離島振興協議会の会長である名で、応分の地方に大企業が生産拠点を移す場合は、優遇税制なり、助成金を出してください。受け入れる地方自治体としたら、環境整備を整えますと。それくらいのダイナミックな提案をしないと、もう空論で終わってしまうんです。当然言うごと、経済の牽引こそが人口減少の歯どめをかける最大の要因であるということは、もう火を見るより明らかなわけですので、ぜひともそこ

まで踏み込んだ議論ができるようにしていただきたいと思いますが、市長、いかがですか。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 子育て支援につきましては、特に力を入れなきゃいけない。それは、昨日でしたか、議会のほうに、子育て会議の委員長から御説明がございました。やはりそのためには、例えば、数人の保育園児を預かっているところが、2人の保育士を置いているというような現状にございます。やはりそこにある意味集約をして、そしてまた、そのことが園児の保育料の低廉化につながる。そういったことを含めまして、やはり親の負担をいかに少なくして、子育てができるか。そういったことに踏み込んだ子ども・子育て会議の答申を、そういったことでやはり実現をしていきたい。議員おっしゃるような空論ではいけないと思っておるわけでありませぬ。

それから、円安・円高、どういうふうになら変わるか、私はその辺はなかなかわかりませぬけれども、確かにおっしゃるように、今までの流れとは変わっているということは間違いありません。

そこで、先ほど申しましたように、やはり製造業も壱岐でやれないことはないんだという、私は環境が整ってきているとは思っています。壱岐出身のある企業の、ある意味中小企業でありますけれども、非常に経営が安定した社長がいらっしゃいまして、その方は、アルミニウムの製造をなさっています。いつかも申し上げましたかもしれませんが、栃木で今、そのアルミニウムの一つの製品が40トンぐらいつくるそうでございますけれども、そういったものをつくって東南アジアに輸出していると。

そこで、私は軽薄短小、あるいは情報は島で大丈夫かなと思っておりましたけれども、そういう企業もぜひ壱岐で何かできませんかとお願いしましたところ、実は、栃木から東南アジアに運ぶよりも、壱岐から東南アジアに運んだが、はるかに運賃が安いんだと。で、その会社の設備は、そう大した設備投資は、私は、それは設備投資は市が出しますよと申し上げましたけど、それは、そう大した、そのレベルは私はわかりませぬけど。で、ぜひお願いできませんかということをお願いしました。自分は、今、タイに主に輸出をしている。ところが、御存じのように、タイは今、政情が不安定でございます。もう少し政情が安定して、もう少し輸出量がふえる。そういう環境ができれば、考えないことはないよとおっしゃっていただきました。私は、その言葉を信じておるわけでございますけど、そういったことで、こちらの先入観で、この企業はいいかなとか、悪いかなとか、私は判断するのをやめました。もうあらゆるところにそういう企業誘致の話を、今しております。

私は、その中で、一つでも二つでもこつんと言え、かつんと返ってくる、そういう方があらわれていただきたいということを願っておりますし、そのことについて足を運びたいと思ってい

ます。

また、先ほどおっしゃいました。離島に政治的に一つの恩典と申しますか、特別措置法みたいなことをつくってやってくれというお願い、それも離島特区等々の関係もございまして、常にお願いをしているところでございます。今からは具体的にそのことを申し上げて、その実現を図っていきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（４番 音嶋 正吾君） 国としても、やはり従来ならば中央の景気が上向けば、地方が上向いてくるというような今までの形はあったんですが、もう今からは、そんなことはできない時代になっているわけです。だから、国としても、地方の自主性、潜在力、提言に期待をしている。そうした面で、私は今回申し上げておるのは、円安になっておるから、海外に生産拠点を置くよりも、国内に拠点を置くことのシフトチェンジをするいい機会であろう。そして、大企業としてのプライドがあるんです。皆さんにそれくらい、日本国民を面倒みますというぐらいのプライドを持たない大企業は、私は大企業とは言えないと思っています。

人材を輩出しているのは地方なんです。その地方が疲弊化している中で、大企業としての当然の責務であると。市長、熱意でこれは出してください、熱意で。私が、今ちょっと掘り下げて聞かなければ、タイの話も出なかったであります。やはり市民の皆さんがこのテレビを聞きながら、ああ、そういうこともあったのかという一つの希望を持たれるわけです。そうしたことをやはり発信していくならば、それこそが住民共同参画につながる。その第一歩であるというふうに私は思っております。

今、選挙中でありますので、公選法にかからぬように物を言わなければいけません、アベノミクスが注目されております。ミクスというのは経済学のことです。エコノミクスのミクスをとったんです。壱岐市では、シラカワミクスが問われておるわけであります。私は、シラカワミクスの３番目成長戦略、いかに地域再生をなすかということをや永遠のテーマとして、喫緊のテーマとして取り組んでいただきたい。そのことをお願いを申し上げ、次の質問に移りたいと思います。

ちょっと通告の内容を忘れましたので、ちょっと再確認をします。あっ、そうでありました。思い出しました。このマニフェストなんです。

次は、私は今回で続けて、６月、９月、１２月、３回続けて行っております。まず、マニフェストの中に、市長は、第１次産業の振興に取り組むとしてあります。そして、その中で、６、５００頭まで減った肉用牛頭数を回復させるため、緊急増頭対策事業を創設しましたと。その成果がいかにあったのか。呼子議員からも先ほどありましたが、今までかつて経験したことがない１２月での高値の取引が行われております。しかし、繁殖牛の飼育頭数は、残念ながら下降

傾向であります。

私が、前日も質問申し上げましたが、平成25年には843戸で6,080頭であったのが、平成26年5月では、792戸、5,916頭、そして、10月末には770戸の飼育農家で、5,869頭と、非常に飼育頭数が減って、壱岐牛がブランド登録商標として認めていただきました。私は、ブランド価値を維持するためにも、やはり繁殖牛の頭数の確保というのは絶対に必要である。一番必要であると、私は思っております。

まずは、市長のお考えをお聞かせをいただいて、私なりに具体的に提案をさせていただきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 音嶋議員の2番目の質問のお答えの前に、先ほどのことを少しだけ、離島を取り巻く行政の環境を一つだけ申し上げたいと思っておりますが、皆様も御存じのように、竹島・尖閣、ここに端を発しまして、今、日本が本当に財政難でございます。国が財政難です。しかしながら、ただ一つ、離島、これは内海離島は違います。外洋離島にだけは追い風が吹いております。この認識のもと、私は、それに甘えるということではございません。このチャンスに、私はこの離島振興の予算を確保しなきゃならなんと、強い気持ちでおるところでございます。そのことを皆様方に申し上げておきたいと思っております。

さて、2番目の質問であります。JAでは7,000頭の目標達成にしているけど、どんどん減っていると。牛がどんどん減っているということで、どういう認識かということでございます。

先ほど申されますように、12月市場には、今、私たちの調査では5,800頭だと思っております。この肉用牛というのは、壱岐の農業の柱でございます。したがって、今、音嶋議員の前段の、どういうふうな考えを持っているか。これは壱岐市農業の柱ということをおっしゃりたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） 議長におわびを申し上げます。第2項目めで、市長の政治姿勢についてという問題で、（2）の首長としての住民自治の遂行上、何が重要視されるのかという答弁を先に申し上げなければならないのを怠っておりましたことを、お許しをいただきたいと思います。ようございますか。許していただけますか。

○議長（町田 正一君） 結構です。

○議員（4番 音嶋 正吾君） それでは、続けさせていただきます。

私は、ここで、この繁殖牛の問題におきましては、今後、5年、10年、15年先に、具体的に繁殖牛がどういう姿になるのかということシミュレーションしてほしいんです。現実にシミ

ュレーションしてほしいんです。

もう前にも申しましたが、60歳から80歳の方が飼育しておられるパーセンテージが52.3%あるわけです。56年の私が質問した6月現在では、54.5%の方が60歳から80歳の方で飼育をされておるといことが現状であります。

そして、例えば、今後やはり7,000頭に乘せていくというJAとしては考えを持ってあります。具体的に、どういうふうにして増頭するのか。例えば、20頭規模の飼育農家をふやすとか、30頭規模の飼育農家にふやしていくとか、やはり具体的にどうするのかという具体性が欠けておると思うんです。いつ、どのようにしてふやしていくかという、そうしたものが確立されない上においては、空論になってしまつては大変なことになるなど。

現在、農業生産販売額の25年度末現在におきましては、約60%が畜産、牛の販売高であるというのは事実であります。間違いない、事実であります。そうした現状に鑑みたとき、いかにこの農業振興においては畜産の繁殖牛の増頭対策というのは、避けては通れない問題であると思ひますので、具体的に計画を煮詰めて、行政としては、どういうふうな指導のあり方をするのか。やはりJAと緊密に連絡をとっていただきたいんです。誰も経営計画には8,000が7,000になったわけです。現実に1,300頭ぐらい戻さなければ、増頭しなければいけないんです。具体的にどうするのかということをお極力詰めていただきたい。そのことをお願いいたします。

そして、私が本丸であります、いわゆる市長が住民自治を遂行する上で、何を大事にされてきておるのかということをお尋ねいたします。

私は、民意という最強の盾を打ち破るということは、政治をつかさどる上で許されぬ行為であると思ふわけです。全てが民意に従うということをしなさいというわけではありません。私たちは、皆さんたちから税というものを預かって自治をつかさどっているわけです。ですから、私は、100%そうしなさいということではないけども、民意というのは最高の盾であるし、いつも申し上げるように、民、信なくば立たず。いわゆる市民との信頼関係が最大限に優先されるべきと思ひますが、基本的な考えをお聞かせ願ひたいと思ひます。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 牛の問題からちょっと飛躍をしたようでございますけど、まず牛の問題からお答えをいたしたいと思ひます。

壱岐市農協におきましては、農業振興計画ということで計画をなさっています。実は、以前には壱岐市も農業振興計画を立てておりました。ところが、やはり農業協同組合が振興計画を立てる中で、市とほぼ同じ計画になってしまうというようなこともありまして、今、市では農業振興計画をつくっておらず、JAの農業振興計画を支援しているという、そういうことで進め

ておるわけでございます。

沓崎市農協におきましては、子牛共同育成施設、繁殖研修施設、繁殖支援施設、肥育センターを建設するなど、肉用牛振興に努力しておられます。その結果、25年度において子牛取引価格で全国7位となって、肉用牛生産団地としての地位を築き、また、ことし4月には、沓崎牛の地域団体商標登録を取得いたしまして、沓崎市のPR活動と販売、消費拡大を図っておられます。また、直営繁殖牛舎100頭規模の建設を行うと聞き及んでいるところでございます。

沓崎市といたしましては、国・県の補助事業並びに市単独事業を活用した繁殖牛の増頭・維持に、畜産農家の取り組みを推進し、子牛生産地としての生産基盤の強化を図るため、7,000頭、空論とおっしゃいましたけど、そうではなくて、7,000頭の早期回復に向けて、畜産農家の皆様と沓崎市農協、関係機関と連携を図り、積極的に取り組んでいるところであります。

現在、市内で生産をされている、販売されている子牛が4,500頭ぐらいと思っておりますが、そのうち1,000頭は沓崎の肥育農家、あるいは、繁殖牛農家が購入をするわけでございまして、3,500頭程度が島外に出ている。これを下回りますと、やはり市場としての魅力がなくなる。そのためには、しかし、7,000頭の回復へ向けて、やはり私、行政もJAも同じ認識でございまして、シミュレーションして何も対策をとらなくて、減ったところのシミュレーション、それは今考えていないところであります。で、その頭数を減らさない。むしろ増頭に向けて頑張っていくという姿勢でいるところでございます。

具体的な取り組みといたしまして、平成27年度に6件、計211頭規模の畜舎の建設が計画されております。平成28年度には2件、計50頭の規模の牛舎を計画をいたしておるところでございまして、今後も関係機関・団体の御意見を拝聴して、増頭運動をしてまいりたいと思っております。

今、増頭対策といたしまして、私も予算を確保いたしておりますけれども、25年度の畜産関係の予算でございまして、5,700万円、26年度は倍増とはいきませんが、4,500万円増の1億2,200万円の予算を計上しているところでございます。これは、県の事業も入っておりますけれども、やはり相当の力は入れているつもりでございます。

次に、首長として住民自治を遂行する上で、何が重視されると考えるかということでございます。

先ほど、音嶋議員は住民自治というのを、住民の意見を聞いて、やるのが住民自治というふうには、私は今受け取ったわけでございますけど、地方自治法という住民自治という認識と私は少し違っております。住民自治というのは、アメリカのように新しく移民した方々がそのままではいけない。で、住民自体が自分たちで自治体をつくらうじゃないか。そして、必要に迫られてきたのが住民自治でございまして、その住民自治が51州集まって合衆国、United States

t e s ということをつくっておるわけでございます。

日本におきましては、それに相對すると申しますか、それと対応する自治として団体自治という制度がとられておるわけでございまして、日本においての住民自治が許されておりますのは、今の段階では、例えば（「市長、市長としての今の地方自治の根幹にかかわることで結構です」と呼ぶ者あり）わかりました。

そういうことで、今、日本では団体自治ということが主でございまして、住民自治というのは、考え方として、いわゆる政治と、そして責任を持つ。発言プラス責任だということでございます。住民の意見を聞くことだけが住民自治ではないという認識でございますので、お願いをいたしたいと思います。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） 畜産関係の問題におきましては、今聞く限りにおきますと、平成29年度ぐらいには、おおむね7,000頭に到達するのではないかなという認識でいいわけですか。今の計算でいきますと、29年度ぐらいには達成できるのかなというような数値で私は受け取りましたが、いかがですか。まず、その件だけお答えください。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 申し上げますように、今は5,800頭程度だということでございます。それに加えまして、27年度に211頭規模の計画があると。で、28年度に50頭規模であるということでございまして、そのトータルが何年度に何頭になるということ、それは、今の段階で不明でございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） いずれにせよ、増頭計画が実になるような形で今後とも努力をしていただきたいと思います。

で、これ一番最後に私が市長の住民自治と申し上げておりましたが、市長として、住民と向き合う上で何を一番重要視されておるのかということをお尋ねする意味で、住民自治ということの表現で通告をさしていただいたわけですから。最も市長が住民に対して市長として住民との信頼関係を築く上で、何を一番重要視されておるのかということをお尋ねをしたいわけですから。まず、もしコメントできましたら、明確にお願いいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 音嶋議員の御質問でございます。住民に相對して何が一番重要に思っているかと。それは、音嶋議員御指摘のように、住民の方々の御意見を聞く。そして、そのことに責任を持ってお答えをしていくということでございます。説明をしていくということでございます。

ただ、その住民の方々の御質問と申しますか、そういったものをこの日本の今の、先ほど申しました団体自治では、議員の皆様方がその代弁者としてこの議会にお出でになっております。したがって、私は、議員の皆様方にお答えすることが住民の方々と向かうことだと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） 言いかえればそういうふうになるわけです。市長も直接選挙で選ばれているわけです。議員諸氏も直接住民から選挙で選ばれておる。いわば2元代表制な形ではあるわけです。議員の表決が住民の意思というふうに判断される一つの考えであろうと思っております。

その中で、私は、市長が座右の銘として、進取ということをして座右の銘にしておられます。これ2回ほど取り上げたんです。私は、この解説が書いてあるわけです。従来の慣習にとらわれず、進んで新しいことをしようとするということになっております。確かにすばらしい座右の銘だと思っております。

しかし、これは住民の意思を尊重しつつ、そのようにしていただきたいと私は思うわけです。その件に関してはいかがですか。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 全くそのとおりであります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 音嶋議員。

○議員（4番 音嶋 正吾君） 今回、人口減少化問題、そして、特に農業の振興、とりわけ畜産の振興について私も市長のほうに見解を賜りました。地方の置かれている環境は非常に厳しいものがございまして。漁師の皆さんにおかれましては大変年末の、このもう師走も中盤になってまいりました。大変苦しい年の瀬であろうと思っております。

そうした中で、我々自治を預かるものがしっかり住民の皆さんの幸せ、いわゆる生活の安定に寄与するべく努力をする。そうして切磋琢磨して、議論して、それを形にしていくと。議論だけでなく形にしていくということが問われておるのではないかと考えております。今後、市長におかれましては牽引車となって、そしてまた、機関車的な牽引車だけでなく、住民を巻き込ん

だ、そうした牽引車として活躍をしていただくことをお願いを申し上げ、私の一般質問を終わります。

〔音嶋 正吾議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって音嶋正吾議員の一般質問を終わります。

○議長（町田 正一君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

次の本会議は、あした12月12日金曜日午前10時から、引き続き一般質問を行います。

立石東触公民館の皆さん、本日は傍聴いただきまして、本当にありがとうございました。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時20分散会
